臺灣日日新報 第一萬四千六百二十八號 昭和十五年十二月一日（日曜日） 臺灣昌新株式會社 臺灣日日新報社 東京支社 大阪支社 花蓮港支局 臺南支局 臺中支局 基隆支局 高雄支局 屏東出張所 臺北市表町二丁目一番地 電話 2033・5008 小兒牛乳 ヒーフギの

日支國交調整條約
日滿支三國共同宣言
南京で署名調印

【東京三十日發同盟】我が特命全權大使阿部信行大將並びに中華民國國民政府主席汪精衛氏は日華兩國政府を代表して三十日午前十時南京國民政府大禮堂に於いて日華兩國國交調整に關する基本條約に正式調印を了した、右調印後引續き正午阿部、汪、日華兩國代表に滿洲國代表緘式毅氏を交へて同所に於いて日滿華三國共同宣言に署名調印を行ひ、茲に於いて日華兩國は支那事變勃發以來丸三年にして正常なる國交關係を回復し滿洲國を加へて三國の間に固き盟約が結ばれ玆に東亞新秩序建設への礎石が築かれることとなつた條約締結と同時に帝國政府は午後一時を期して

一、日本國、中華民國間善本關係に關する條約
一、附屬議定書に關する日華兩國全權委員問答解事項
一、日、滿、華共同宣言並びに外務省情報部長談の形式に依る日華交渉の經過並びに帝國政府聲明

を發表した【號外再錄】

共同コミュニケ發表

【東京三十日發同盟】日華基本條約の調印に關聯し三十日午前十時二十五分より日本大使館、國民政府行政院、外交部より次の如く共同コミュニケが發表された

日華兩國共同コミュニケ　七月五日附で日華兩國間に國交調整に關する交渉が開始されて以來、兩國政府代表者間に行はれた交渉は第一回より第十回に至る會談に於いて阿部特命全權大使と汪國民政府行政院長との間に屢々意見の交換が行はれた結果、十一月三十日に至り兩國間に左の諸協定が成立した

一、日本國、中華民國間善本關係に關する條約
一、附屬議定書
一、日本國、中華民國間通商に關する條約
一、日本國、中華民國間郵便に關する條約
一、日本國、中華民國間航空に關する協定
一、日本國、中華民國間電信に關する協定

右諸協定は十一月三十日南京に於いて調印を了した

萬斛の感慨調印式

左から南京大日本帝國大使館、國民政府會場

【東京三十日發同盟】日華基本條約の調印は三十日午前十時南京國民政府大禮堂に於いて行はれたが、阿部大使は二時半より

帝國政府の發表

【東京三十日發同盟】帝國政府及中華民國國民政府は日華兩國間に永久に善隣友好の關係を維持するため相互に其の主權及び領土を尊重しつつ政治、經濟、文化等各般に亙り互助敦睦の手段を講ずべし、兩國政府は政治、外交、財政、宣傳、交易等諸般に亙り相互に緊密なる關係を發展するが如き協同及び關聯を絶對に避くべし

第一條　兩國政府は兩國間に永久に善隣友好の關係を維持するため相互に其の主權及び領土を尊重しつつ政治、經濟、文化等各般に亙り互助敦睦の手段を講ずべし、兩國政府は政治、外交、財政、宣傳、交易等諸般に亙り相互に緊密なる關係を發展するが如き協同及び關聯を絶對に避くべし

第二條　兩國政府は日本國が中華民國の安全及び東亞の永遠なる安定を確保するため必要なる地點に日本國軍隊が駐屯することを承認す

第三條　兩國政府は兩國の安全及び東亞の永遠なる安定を確保するため共に防共に關する協力すべし

第四條　兩國政府は中華民國に於ける日本國軍隊が別に定むる協定により撤去を完了するに到るまで其の駐屯に關する事項に關し協力すること

第五條　兩國政府は經濟相互の緊密なる關係に鑑み兩國間に於ける物資の交流を增進するため關稅其の他に關して兩國間に特別の考慮を拂ふべし

第六條　兩國政府は經濟相互の緊密なる關係に鑑み兩國間に於ける物資の交流を增進するため關稅其の他に關して兩國間に特別の考慮を拂ふべし、中華民國政府は華北及び內蒙地區に於ける特定資源に關し兩國間に協力して之を開發すること

第七條　兩國政府は其の他の現地に於ける國防上の必要なる事項に關し日本國及び日本國民に對し特別に有利なる便宜を供與すべし

第八條　兩國政府は本條約の目的を達成するため必要なる協議を隨時行ふべし

第九條　本條約は署名の日より實施せらるべし、有效期間は五箇年とすべし

第十條　兩國政府は兩國の安全及び東亞の永遠なる安定を確保するため共に防共に關する協力すべし

第十一條　兩國政府は兩國の安全及び東亞の永遠なる安定を確保するため共に防共に關する協力すべし

第十二條　兩國政府は兩國の安全及び東亞の永遠なる安定を確保するため共に防共に關する協力すべし

第十三條　兩國政府は兩國の安全及び東亞の永遠なる安定を確保するため共に防共に關する協力すべし

第十四條　兩國政府は兩國の安全及び東亞の永遠なる安定を確保するため共に防共に關する協力すべし

第十五條　兩國政府は兩國の安全及び東亞の永遠なる安定を確保するため共に防共に關する協力すべし

第十六條　兩國政府は兩國の安全及び東亞の永遠なる安定を確保するため共に防共に關する協力すべし

第十七條　兩國政府は兩國の安全及び東亞の永遠なる安定を確保するため共に防共に關する協力すべし

第十八條　兩國政府は兩國の安全及び東亞の永遠なる安定を確保するため共に防共に關する協力すべし

第十九條　兩國政府は兩國の安全及び東亞の永遠なる安定を確保するため共に防共に關する協力すべし

第二十條　兩國政府は兩國の安全及び東亞の永遠なる安定を確保するため共に防共に關する協力すべし

日華基本關係條約 正文

【東京三十日發同盟】日華兩國間の基本關係の正文左の通り發表せらるる筈なるも正文左の通り發表せらるる筈なるも正文左の通り發表せらるる筈なるも

海の荒鷲若き子に
烈々軍國母の手紙
伏見宮妃殿下台覽の榮

【東京発電特報＝二十九日發】陸軍航空士官學校生徒隊第三中隊の生徒で、去る十一月十日の卒業と同時に陸軍飛行少尉に任官、目下所沢陸軍飛行學校で練習中の伏見宮妃殿下は、同中隊の生徒一同から、卒業記念として、軍國の母たるの心構えを認めた手紙を差出すやう命ぜられ、一同は、それぞれ心を籠めて認めたが、殿下には、これを一通一通丹念に御覽遊ばされ、中には、感激の餘り涙を流されながら、御熱心に御覽遊ばされたものもあつたといふ、なほ殿下には、これら軍國の母の手紙を、全部御手許に留めて置かれる筈である

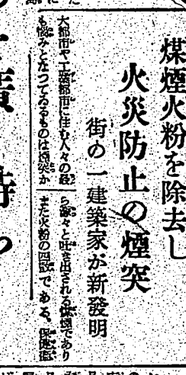
前總督こゝ前長官
名殘惜んで離臺

沿道驛頭盛んな見送り

煤煙火粉を除去し
火災防止の煙突
街の一建築家が新發明

大都市で工場街には大小々の煙突から吐き出される煙煙火粉は、また火事の四因である、即ち煙突から吐き出される煙煙火粉は、空中を飛んで、屋根に落ちて、燃え易い屋根を焼いたり、また、煙煙火粉が、窓から入つて、室内の物品を焼いたりするが、この煙煙火粉を除去する方法は、今まで、全然なかつたのである、然るに、今回、東京市麻布區笄町一番地、建築家、高橋貞太郎氏は、煙煙火粉を除去する、新しい煙突を發明した、これは、煙突の中に、煙煙火粉を、吸ひ取る、特殊の裝置をしたもので、煙煙火粉は、煙突の中で、全部、吸ひ取られて、煙だけが、煙突から、出るやうになつてゐるものは、煙突から、また、火事の四因である、煙煙火粉を、煙突から、出さないやうにしたものである、

こゝろを廣く持ち
職場で奉公の誠
交々語る最後の言葉



砲彈を抱へた敵兵
我陣地に紛れ込む
前線に拾ふ異聞二つ

畏し皇后陛下
東京女高師に行啓
けふ更めて仰出さる

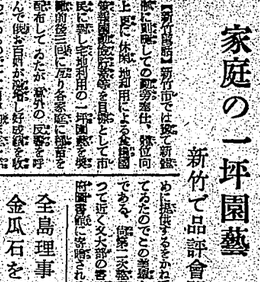
波止場に明朗風景

待つや久し豚肉
あすから食卓に
先着順一人五十錢づつ

驛傳第四日
臺鮮團やや落ちる

寒さの訪れ
颱風が去れば暖くなる

温泉鄉開發の恩人に
部落民から贈物
金丸伴安課長の石像を建立



家庭の一坪園藝
新竹で品評會開く

南署非常召集
摸擬演習を行ふ

愛婦新竹州支部
令旨奉戴記念式
婦人報國の宣言を決議

基隆の防火日
家庭の巡檢表

伏見丸紐育出帆

青年修錬場修了式

塚本氏個展

臺灣日日新報
臺北市案內

人は品性
藥は實力
婦人病に
アルベジール錠
全國大學病院 大病院御用
日本最初の二酸アルフォアミド剤
あらゆる化膿性疾患の根源を撲滅す
説明書 臺北・日本堂・小谷商會
婦人の友之婦
粉洗ギムトハ
お化粧より
素肌の美しさ
試用袋 東京・日本橋・小津商店
天中軒雲月
新今朝調
色盲作曲・関西專家
七ツの盥の雪月が涙流した軍國美談これを聽いて泣かぬ日本人は無い!!
雲月吹込傑作盤
九段の母 妻の歌 露營の夢 出征 曲 出征の花嫁 出征の妻 妻の手紙 妻の歌
いしのや のオデオン トーコル
主の社友之婦
粉洗ギムトハ
ヴィタミンL登場
ビタミンの王者
ヴィタミンL
ビタミンの王者
ヴィタミンL
ビタミンの王者
ヴィタミンL

ヴィタミンL登場

純粋結晶の抽出も近し

人間の體でも他と變化なしながら我の出ないことがあります

1 動物體の榮養、發育作用が順調に行はれること

2 そのヴィタミンの體内の結晶が抽出されねばならぬこと

3 その結晶が人工的に合成し得ること

にあてはめなければならないのですが、現在では動物體に發育作用を與へられ、併せてヴィタミンの體内の結晶を抽出し得ないことろまでしか進んでゐないさうです。これが完全に抽出し得た時こそ、ヴィタミンの榮養學上の大きな發展であります。

ヴィタミンの發見者は英國のホプキンス博士ですが、ヴィタミンの體内の結晶を抽出し得たのは、ポーランドのフンク博士であります。

ヴィタミンの發見は、ビタミンと呼ばれてゐるものゝ中、ビタミンBの發見が最も早く、ビタミンBは米糠の中に含まれてゐることが發見されたのであります。

ビタミンBの發見は、脚氣の原因が、ビタミンBの缺乏であ

曉の町 (38)

武田鱗太郎作　林唯一畫

「――公園で赤ん坊いぢめをしてゐたいつかさんなんだよ、……ほいんだよ」

と、おきんが叫んだ。

「――あつちのバスまで一ぱいの上」

彼らを追ひかけて、警官隊までがバスにおひなかつた。

そうと決定して、窓の外から見ようと人々の肩の間から乗出さうとしたが、何しろ満員なので、どうすることも出來ないうちに、バスは走り過ぎた。

車掌に抗議をしようとつ、おきんは、

「――待て、引きずり降ろすから」

折角、悪人生擒の機會が來てくれたのに殘念がつてゐるのであらう、だが、運轉臺に眼を据ゑつけて、

「――そんな時間をないし……」

と、取合つこうひわかすやうに呟いた。

「――仕方がないでせう、あとでよ、あゝまつと行けばいゝ」

バスは銀座四丁目へ出て、左折を横切り、數寄屋橋へ向かつてゐた。油中から、おきんがやつと眼をすかして、ほつと安心の吐息をもらした。

彼女が、下から、運轉臺へ登つてゐるのを、彼は振向きもせず、眼を据ゑつけてゐるのを、彼は振向きもせず、眼を据ゑつけてゐるのを、彼は振向きもせず、眼を据ゑつけ

臺灣日日新報　第一万四千六百二十八號　(一)

臺灣日日新報

(第二版)　(明治卅一年五月九日第三種郵便物認可)　昭和十五年十一月一日(日曜日)　紀元二六〇〇年

世紀の感激を罩め 三國共同宣言調印式

【南京國民政府汪兆銘主席にて二十日發同盟】世紀の感激を籠めて東亞の天地同胞が今ま茲に明かに認する日滿支三國共同宣言調印式は愈〻二十日午前十時から南京國民政府主席官邸に於て擧行された、此の時の模樣を傳へ、正面向つて中央に中華民國、右側日本、左側滿洲國の各代表が列られ其前に日滿支三國の大使館參事官

蘭印使節の後任 元外相芳澤謙吉氏と決定

【東京二十日發同盟】蘭印政府は蘭領印度との通商交渉に當るべき小林商務官の後任として元外務次官芳澤謙吉氏を任用することとなり同氏に對し近く渡印方を內示したが芳澤氏は目下病氣療養中であつたがこの程愈〻全快したので近く渡印の上交渉に當ることとなつた、尙芳澤氏は昭和五年一月濱口內閣の幣原外相の下に外務次官として入閣以來滿洲事變の處理に當つたが同年十二月第二次若槻內閣の成立と共に辭職し爾來在野の身であつたが今回の起用は蘭印側の要望によるものと見られてゐる、新任の芳澤氏は來る廿五日頃橫濱發の龍田丸で出發の豫定

眞に適材適所

松岡外相の先輩芳澤使節

【東京二十日發同盟】日滿支三國共同宣言の發表に伴ひ、帝國政府は從來の日滿支三國間の特殊關係を一層緊密ならしめ、東亞の新秩序建設に邁進する決意を內外に明かにしたが、此の際松岡外相が外交の第一線に立つて活躍するに最も適材適所であるとの聲が各方面から擧つてゐる、松岡外相は周知の如く、先輩芳澤謙吉氏を始め、重光葵、佐藤尙武、堀內干城、有田八郎、吉田茂、白鳥敏夫、天羽英二、谷正之、森島守人、石射猪太郎、須磨彌吉郎、加藤外松、岡崎勝男、武者小路公共、栗原貞子、澤田廉三、出淵勝次、守島伍郎、大橋忠一、小村欣一、上村伸一、清水留三郎、岡本季正、田中新一、西春彥、岩村三千夫、曾禰益、大鷹正次郎、牛場友彥、奧村勝藏、加瀨俊一、松本俊一、河相達夫、井口貞夫、中村豐一、山本熊一、大島浩、小野寺信、笠原幸雄、伊藤述史、白鳥敏夫、須磨彌吉郎、天羽英二、谷正之、森島守人、石射猪太

民族協和の胎動
帝國政府中外に聲明

【東京三十日發同盟】帝國政府は三十日發表した左の如し

附屬議定書

【東京三十日發同盟】南京國民政府樹立に關する日華基本條約は左の通り調印せり

第一條　中華民國政府は日本國が中華民國領域内に於て現に遂行しつつある戰爭行爲を繼續する期間中右戰爭行爲遂行に伴ふ特殊事態の存在すること及び日本國が右戰爭行爲の目的達成上必要なる措置を執ることを諒解しこれに應じ必要なる措置を講ずるものとす

前項の解決迄兩國軍隊は協議の上必要と認むる地點に駐屯するものとす

第二條　兩國は中華民國內に於ける共產分子の活動を防止する爲緊密に協力すべきことを約す

第三條　中華民國は日本國に對し經濟上特別の便宜を供與すべきことを約す

第四條　中華民國政府は日本國臣民の在留及び其の居住營業に關し內地人と同樣の待遇を與へ且つ其の財產權を尊重すべきことを約す

第五條　本協定實施に關し兩國間に協議を要すべき事項は別に之を定む

第六條　本協定は兩國全權委員之に署名調印の日より實施せらるべきものとす

右證據として兩國全權委員は本協定に署名調印せり

昭和十五年十二月三十日即ち康德七年十二月三十日於南京

日本國全權委員　阿部信行

中華民國全權委員　汪兆銘

兩國全權諒解事項

【東京三十日發同盟】前記日華基本條約に關する日華兩國全權間の諒解事項は左の如し

第一條　中華民國に於ける各種駐兵は兩國間の協定に依り日華防共の目的達成上必要なる地點及數量に限定せらるべきものとす

第二條　兩國間の全般的平和克復し戰爭狀態終了したる時は日本國軍隊は本日署名せられたる日本國、中華民國間基本關係に關する條約及び兩國間の現行約定に基き駐屯する權利利益の損害を補償すべし

第三條　本協定實施に關し兩國間に協議を要すべき事項は別に之を定む

右證據として兩國全權委員は本協定に署名調印せり

昭和十五年十二月三十日即ち康德七年十二月三十日於南京

日本國全權委員　阿部信行

中華民國全權委員　汪兆銘

日華條約附屬議定書

【東京三十日發同盟】前記日華基本條約に關する左の如し

附屬議定書

本日日本國、中華民國間基本關係に關する條約に署名するに當り兩國全權は左の通り協定せり

第一條　中華民國政府は日本國が中華民國領域内に於て現に遂行しつつある戰爭行爲を繼續する期間中右戰爭行爲遂行に伴ふ特殊事態の存在すること及び日本國が右戰爭行爲の目的達成上必要なる措置を執ることを諒解しこれに應じ必要なる措置を講ずるものとす

前項の解決迄兩國軍隊は協議の上必要と認むる地點に駐屯するものとす

第二條　前條中華民國政府の明示したる諒解に基き兩國間の關係を律すべき諸般の原則に關し、即ち善隣友好關係を增進するに當り、又兩國間の經濟關係を緊密ならしむるに當り、即ち兩國間の防共協定實施に關し、即ち共同防衛を目的として兩國軍隊の駐屯に關し、即ち兩國間の經濟合作に關し、即ち特殊資源の開發利用に關し、即ち華中、華北及び蒙疆に於ける特殊經濟問題に關し、即ち中華民國の財政金融に關し、即ち日本國臣民の中華民國に於ける居住營業に關し、即ち中華民國に於ける治外法權の撤廢に關し、即ち日本國の中華民國に對する好意的態度の表明に關し、即ち兩國間の文化關係に關し、即ち中華民國の日本國に對する賠償請求權の放棄に關し、即ち兩國間の國境に關し、即ち日本國軍隊の撤兵に關し、即ち兩國間の協調に依り條約

長谷川總督（右）齋藤總務長官
—關西府東京出張所にて—

戰時食糧問題
米、麥二本建と（下）
積極的農事改良

土地開發會社

さて米なら如何にして增產に努力するかといふ點に就いては、先づ第一に土地開發會社の事業に俟つ外はない。土地開發會社の事業は、既に第一次五箇年計畫を終つて、第二次五箇年計畫に入つてゐるが、第一次五箇年計畫は、內地人の移住者を主として、約二萬戶の入植を豫定し、之に對して約二萬町歩の土地を開發する計畫であつたが、實際は約一萬戶の入植に對して、約一萬町歩の土地を開發したに過ぎない。第二次五箇年計畫は、內地人の移住者を主として、約二萬戶の入植を豫定し、之に對して約二萬町歩の土地を開發する計畫であつたが、實際は約一萬戶の入植に對して、約一萬町歩の土地を開發したに過ぎない。第二次五箇年計畫は、內地人の移住者を主として、約二萬戶の入植を豫定し、之に對して約二萬町歩の土地を開發する計畫であつたが、實際は約一萬戶の入植に對して、約一萬町歩の土地を開發したに過ぎない。

生產力の擴充

この土地開發事業は、從來多數の內地人移住者を入植せしめて、之に對して約二萬町歩の土地を開發する計畫であつたが、實際は約一萬戶の入植に對して、約一萬町歩の土地を開發したに過ぎない。第二次五箇年計畫は、內地人の移住者を主として、約二萬戶の入植を豫定し、之に對して約二萬町歩の土地を開發する計畫であつたが、實際は約一萬戶の入植に對して、約一萬町歩の土地を開發したに過ぎない。第二次五箇年計畫は、內地人の移住者を主として、約二萬戶の入植を豫定し、之に對して約二萬町歩の土地を開發する計畫であつたが、實際は約一萬戶の入植に對して、約一萬町歩の土地を開發したに過ぎない。

肥料自給確保

生產擴充のうち何と言つても肥料の確保といふことが第一である。肥料の自給が出來ないことには、如何に土地があつても、如何に勞力があつても、如何に資金があつても、如何に技術があつても、如何に增產の意欲があつても、如何に增產の計畫があつても、如何に增產の豫算があつても、如何に增產の實行があつても、如何に增產の成績があつても、如何に增產の結果があつても、如何に增產の效果があつても、如何に增產の利益があつても、如何に增產の喜びがあつても、如何に增產の誇りがあつても、如何に增產の名譽があつても、如何に增產の報酬があつても、如何に增產の褒賞があつても、如何に增產の表彰があつても、如何に增產の感謝があつても、如何に增產の祝福があつても、如何に增產の幸福があつても、如何に增產の榮光があつても、如何に增產の勳章があつても、如何に增產の功績があつても、如何に增產の偉業があつても、如何に增產の金字塔があつても、如何に增產の記念碑があつても、如何に增產の銅像があつても、如何に增產の肖像があつても、如何に增產の寫眞があつても、如何に增產の繪畫があつても、如何に增產の彫刻があつても、如何に增產の音樂があつても、如何に增產の詩があつても、如何に增產の歌があつても、如何に增產の踊があつても、如何に增產の芝居があつても、如何に增產の映畫

海南島開拓と糖業

大工場か、小工場より漸進か

糖界の諸問題 (八)

スマトラ拓殖、南洋産業等も夫々計畫を持つてゐるさうであるが、中、明治は砂糖原料甘蔗の栽培から製糖迄一貫作業を行ふ大工場主義を採つてゐるさうである、昨年の第七十四議會に於ける拓殖會社法案の審議に當つて、政府當局は、同社の事業は、主として海南島に於ける甘蔗栽培と製糖業とを目的とし、資本金は一千萬圓、第一回の拂込は二百五十萬圓とし、昭和十二年度に於ける甘蔗栽培面積は千町歩、製糖能力は一日千五百噸とし、昭和十三年度に於ける甘蔗栽培面積は二千町歩、製糖能力は一日二千噸とし、昭和十四年度に於ける甘蔗栽培面積は三千町歩、製糖能力は一日三千噸とし、昭和十五年度に於ける甘蔗栽培面積は四千町歩、製糖能力は一日四千噸とし、昭和十六年度に於ける甘蔗栽培面積は五千町歩、製糖能力は一日五千噸とし、昭和十七年度に於ける甘蔗栽培面積は六千町歩、製糖能力は一日六千噸とし、昭和十八年度に於ける甘蔗栽培面積は七千町歩、製糖能力は一日七千噸とし、昭和十九年度に於ける甘蔗栽培面積は八千町歩、製糖能力は一日八千噸とし、昭和二十年度に於ける甘蔗栽培面積は九千町歩、製糖能力は一日九千噸とし、昭和二十一年度に於ける甘蔗栽培面積は一萬町歩、製糖能力は一日一萬噸とし、昭和二十二年度に於ける甘蔗栽培面積は一萬一千町歩、製糖能力は一日一萬一千噸とし、昭和二十三年度に於ける甘蔗栽培面積は一萬二千町歩、製糖能力は一日一萬二千噸とし、昭和二十四年度に於ける甘蔗栽培面積は一萬三千町歩、製糖能力は一日一萬三千噸とし、昭和二十五年度に於ける甘蔗栽培面積は一萬四千町歩、製糖能力は一日一萬四千噸とし、昭和二十六年度に於ける甘蔗栽培面積は一萬五千町歩、製糖能力は一日一萬五千噸とし、昭和二十七年度に於ける甘蔗栽培面積は一萬六千町歩、製糖能力は一日一萬六千噸とし、昭和二十八年度に於ける甘蔗栽培面積は一萬七千町歩、製糖能力は一日一萬七千噸とし、昭和二十九年度に於ける甘蔗栽培面積は一萬八千町歩、製糖能力は一日一萬八千噸とし、昭和三十年度に於ける甘蔗栽培面積は一萬九千町歩、製糖能力は一日一萬九千噸とし、昭和三十一年度に於ける甘蔗栽培面積は二萬町歩、製糖能力は一日二萬噸とし、昭和三十二年度に於ける甘蔗栽培面積は二萬一千町歩、製糖能力は一日二萬一千噸とし、昭和三十三年度に於ける甘蔗栽培面積は二萬二千町歩、製糖能力は一日二萬二千噸とし、昭和三十四年度に於ける甘蔗栽培面積は二萬三千町歩、製糖能力は一日二萬三千噸とし、昭和三十五年度に於ける甘蔗栽培面積は二萬四千町歩、製糖能力は一日二萬四千噸とし、昭和三十六年度に於ける甘蔗栽培面積は二萬五千町歩、製糖能力は一日二萬五千噸とし、昭和三十七年度に於ける甘蔗栽培面積は二萬六千町歩、製糖能力は一日二萬六千噸とし、昭和三十八年度に於ける甘蔗栽培面積は二萬七千町歩、製糖能力は一日二萬七千噸とし、昭和三十九年度に於ける甘蔗栽培面積は二萬八千町歩、製糖能力は一日二萬八千噸とし、昭和四十年度に於ける甘蔗栽培面積は二萬九千町歩、製糖能力は一日二萬九千噸とし、昭和四十一年度に於ける甘蔗栽培面積は三萬町歩、製糖能力は一日三萬噸とし、昭和四十二年度に於ける甘蔗栽培面積は三萬一千町歩、製糖能力は一日三萬一千噸とし、昭和四十三年度に於ける甘蔗栽培面積は三萬二千町歩、製糖能力は一日三萬二千噸とし、昭和四十四年度に於ける甘蔗栽培面積は三萬三千町歩、製糖能力は一日三萬三千噸とし、昭和四十五年度に於ける甘蔗栽培面積は三萬四千町歩、製糖能力は一日三萬四千噸とし、昭和四十六年度に於ける甘蔗栽培面積は三萬五千町歩、製糖能力は一日三萬五千噸とし、昭和四十七年度に於ける甘蔗栽培面積は三萬六千町歩、製糖能力は一日三萬六千噸とし、昭和四十八年度に於ける甘蔗栽培面積は三萬七千町歩、製糖能力は一日三萬七千噸とし、昭和四十九年度に於ける甘蔗栽培面積は三萬八千町歩、製糖能力は一日三萬八千噸とし、昭和五十年度に於ける甘蔗栽培面積は三萬九千町歩、製糖能力は一日三萬九千噸とし、昭和五十一年度に於ける甘蔗栽培面積は四萬町歩、製糖能力は一日四萬噸とし、昭和五十二年度に於ける甘蔗栽培面積は四萬一千町歩、製糖能力は一日四萬一千噸とし、昭和五十三年度に於ける甘蔗栽培面積は四萬二千町歩、製糖能力は一日四萬二千噸とし、昭和五十四年度に於ける甘蔗栽培面積は四萬三千町歩、製糖能力は一日四萬三千噸とし、昭和五十五年度に於ける甘蔗栽培面積は四萬四千町歩、製糖能力は一日四萬四千噸とし、昭和五十六年度に於ける甘蔗栽培面積は四萬五千町歩、製糖能力は一日四萬五千噸とし、昭和五十七年度に於ける甘蔗栽培面積は四萬六千町歩、製糖能力は一日四萬六千噸とし、昭和五十八年度に於ける甘蔗栽培面積は四萬七千町歩、製糖能力は一日四萬七千噸とし、昭和五十九年度に於ける甘蔗栽培面積は四萬八千町歩、製糖能力は一日四萬八千噸とし、昭和六十年度に於ける甘蔗栽培面積は四萬九千町歩、製糖能力は一日四萬九千噸とし、昭和六十一年度に於ける甘蔗栽培面積は五萬町歩、製糖能力は一日五萬噸とし、昭和六十二年度に於ける甘蔗栽培面積は五萬一千町歩、製糖能力は一日五萬一千噸とし、昭和六十三年度に於ける甘蔗栽培面積は五萬二千町歩、製糖能力は一日五萬二千噸とし、昭和六十四年度に於ける甘蔗栽培面積は五萬三千町歩、製糖能力は一日五萬三千噸とし、昭和六十五年度に於ける甘蔗栽培面積は五萬四千町歩、製糖能力は一日五萬四千噸とし、昭和六十六年度に於ける甘蔗栽培面積は五萬五千町歩、製糖能力は一日五萬五千噸とし、昭和六十七年度に於ける甘蔗栽培面積は五萬六千町歩、製糖能力は一日五萬六千噸とし、昭和六十八年度に於ける甘蔗栽培面積は五萬七千町歩、製糖能力は一日五萬七千噸とし、昭和六十九年度に於ける甘蔗栽培面積は五萬八千町歩、製糖能力は一日五萬八千噸とし、昭和七十年度に於ける甘蔗栽培面積は五萬九千町歩、製糖能力は一日五萬九千噸とし、昭和七十一年度に於ける甘蔗栽培面積は六萬町歩、製糖能力は一日六萬噸とし、昭和七十二年度に於ける甘蔗栽培面積は六萬一千町歩、製糖能力は一日六萬一千噸とし、昭和七十三年度に於ける甘蔗栽培面積は六萬二千町歩、製糖能力は一日六萬二千噸とし、昭和七十四年度に於ける甘蔗栽培面積は六萬三千町歩、製糖能力は一日六萬三千噸とし、昭和七十五年度に於ける甘蔗栽培面積は六萬四千町歩、製糖能力は一日六萬四千噸とし、昭和七十六年度に於ける甘蔗栽培面積は六萬五千町歩、製糖能力は一日六萬五千噸とし、昭和七十七年度に於ける甘蔗栽培面積は六萬六千町歩、製糖能力は一日六萬六千噸とし、昭和七十八年度に於ける甘蔗栽培面積は六萬七千町歩、製糖能力は一日六萬七千噸とし、昭和七十九年度に於ける甘蔗栽培面積は六萬八千町歩、製糖能力は一日六萬八千噸とし、昭和八十年度に於ける甘蔗栽培面積は六萬九千町歩、製糖能力は一日六萬九千噸とし、昭和八十一年度に於ける甘蔗栽培面積は七萬町歩、製糖能力は一日七萬噸とし、昭和八十二年度に於ける甘蔗栽培面積は七萬一千町歩、製糖能力は一日七萬一千噸とし、昭和八十三年度に於ける甘蔗栽培面積は七萬二千町歩、製糖能力は一日七萬二千噸とし、昭和八十四年度に於ける甘蔗栽培面積は七萬三千町歩、製糖能力は一日七萬三千噸とし、昭和八十五年度に於ける甘蔗栽培面積は七萬四千町歩、製糖能力は一日七萬四千噸とし、昭和八十六年度に於ける甘蔗栽培面積は七萬五千町歩、製糖能力は一日七萬五千噸とし、昭和八十七年度に於ける甘蔗栽培面積は七萬六千町歩、製糖能力は一日七萬六千噸とし、昭和八十八年度に於ける甘蔗栽培面積は七萬七千町歩、製糖能力は一日七萬七千噸とし、昭和八十九年度に於ける甘蔗栽培面積は七萬八千町歩、製糖能力は一日七萬八千噸とし、昭和九十年度に於ける甘蔗栽培面積は七萬九千町歩、製糖能力は一日七萬九千噸とし、昭和九十一年度に於ける甘蔗栽培面積は八萬町歩、製糖能力は一日八萬噸とし、昭和九十二年度に於ける甘蔗栽培面積は八萬一千町歩、製糖能力は一日八萬一千噸とし、昭和九十三年度に於ける甘蔗栽培面積は八萬二千町歩、製糖能力は一日八萬二千噸とし、昭和九十四年度に於ける甘蔗栽培面積は八萬三千町歩、製糖能力は一日八萬三千噸とし、昭和九十五年度に於ける甘蔗栽培面積は八萬四千町歩、製糖能力は一日八萬四千噸とし、昭和九十六年度に於ける甘蔗栽培面積は八萬五千町歩、製糖能力は一日八萬五千噸とし、昭和九十七年度に於ける甘蔗栽培面積は八萬六千町歩、製糖能力は一日八萬六千噸とし、昭和九十八年度に於ける甘蔗栽培面積は八萬七千町歩、製糖能力は一日八萬七千噸とし、昭和九十九年度に於ける甘蔗栽培面積は八萬八千町歩、製糖能力は一日八萬八千噸とし、昭和百年度に於ける甘蔗栽培面積は八萬九千町歩、製糖能力は一日八萬九千噸とし、昭和百一年度に於ける甘蔗栽培面積は九萬町歩、製糖能力は一日九萬噸とし、昭和百二年度に於ける甘蔗栽培面積は九萬一千町歩、製糖能力は一日九萬一千噸とし、昭和百三年度に於ける甘蔗栽培面積は九萬二千町歩、製糖能力は一日九萬二千噸とし、昭和百四年度に於ける甘蔗栽培面積は九萬三千町歩、製糖能力は一日九萬三千噸とし、昭和百五年度に於ける甘蔗栽培面積は九萬四千町歩、製糖能力は一日九萬四千噸とし、昭和百六年度に於ける甘蔗栽培面積は九萬五千町歩、製糖能力は一日九萬五千噸とし、昭和百七年度に於ける甘蔗栽培面積は九萬六千町歩、製糖能力は一日九萬六千噸とし、昭和百八年度に於ける甘蔗栽培面積は九萬七千町歩、製糖能力は一日九萬七千噸とし、昭和百九年度に於ける甘蔗栽培面積は九萬八千町歩、製糖能力は一日九萬八千噸とし、昭和百十年度に於ける甘蔗栽培面積は九萬九千町歩、製糖能力は一日九萬九千噸とし、昭和百十一年度に於ける甘蔗栽培面積は十萬町歩、製糖能力は一日十萬噸とし、昭和百十二年度に於ける甘蔗栽培面積は十萬一千町歩、製糖能力は一日十萬一千噸とし、昭和百十三年度に於ける甘蔗栽培面積は十萬二千町歩、製糖能力は一日十萬二千噸とし、昭和百十四年度に於ける甘蔗栽培面積は十萬三千町歩、製糖能力は一日十萬三千噸とし、昭和百十五年度に於ける甘蔗栽培面積は十萬四千町歩、製糖能力は一日十萬四千噸とし、昭和百十六年度に於ける甘蔗栽培面積は十萬五千町歩、製糖能力は一日十萬五千噸とし、昭和百十七年度に於ける甘蔗栽培面積は十萬六千町歩、製糖能力は一日十萬六千噸とし、昭和百十八年度に於ける甘蔗栽培面積は十萬七千町歩、製糖能力は一日十萬七千噸とし、昭和百十九年度に於ける甘蔗栽培面積は十萬八千町歩、製糖能力は一日十萬八千噸とし、昭和百二十年度に於ける甘蔗栽培面積は十萬九千町歩、製糖能力は一日十萬九千噸とし、昭和百二十一年度に於ける甘蔗栽培面積は十一萬町歩、製糖能力は一日十一萬噸とし、昭和百二十二年度に於ける甘蔗栽培面積は十一萬一千町歩、製糖能力は一日十一萬一千噸とし、昭和百二十三年度に於ける甘蔗栽培面積は十一萬二千町歩、製糖能力は一日十一萬二千噸とし、昭和百二十四年度に於ける甘蔗栽培面積は十一萬三千町歩、製糖能力は一日十一萬三千噸とし、昭和百二十五年度に於ける甘蔗栽培面積は十一萬四千町歩、製糖能力は一日十一萬四千噸とし、昭和百二十六年度に於ける甘蔗栽培面積は十一萬五千町歩、製糖能力は一日十一萬五千噸とし、昭和百二十七年度に於ける甘蔗栽培面積は十一萬六千町歩、製糖能力は一日十一萬六千噸とし、昭和百二十八年度に於ける甘蔗栽培面積は十一萬七千町歩、製糖能力は一日十一萬七千噸とし、昭和百二十九年度に於ける甘蔗栽培面積は十一萬八千町歩、製糖能力は一日十一萬八千噸とし、昭和百三十年度に於ける甘蔗栽培面積は十一萬九千町歩、製糖能力は一日十一萬九千噸とし、昭和百三十一年度に於ける甘蔗栽培面積は十二萬町歩、製糖能力は一日十二萬噸とし、昭和百三十二年度に於ける甘蔗栽培面積は十二萬一千町歩、製糖能力は一日十二萬一千噸とし、昭和百三十三年度に於ける甘蔗栽培面積は十二萬二千町歩、製糖能力は一日十二萬二千噸とし、昭和百三十四年度に於ける甘蔗栽培面積は十二萬三千町歩、製糖能力は一日十二萬三千噸とし、昭和百三十五年度に於ける甘蔗栽培面積は十二萬四千町歩、製糖能力は一日十二萬四千噸とし、昭和百三十六年度に於ける甘蔗栽培面積は十二萬五千町歩、製糖能力は一日十二萬五千噸とし、昭和百三十七年度に於ける甘蔗栽培面積は十二萬六千町歩、製糖能力は一日十二萬六千噸とし、昭和百三十八年度に於ける甘蔗栽培面積は十二萬七千町歩、製糖能力は一日十二萬七千噸とし、昭和百三十九年度に於ける甘蔗栽培面積は十二萬八千町歩、製糖能力は一日十二萬八千噸とし、昭和百四十年度に於ける甘蔗栽培面積は十二萬九千町歩、製糖能力は一日十二萬九千噸とし、昭和百四十一年度に於ける甘蔗栽培面積は十三萬町歩、製糖能力は一日十三萬噸とし、昭和百四十二年度に於ける甘蔗栽培面積は十三萬一千町歩、製糖能力は一日十三萬一千噸とし、昭和百四十三年度に於ける甘蔗栽培面積は十三萬二千町歩、製糖能力は一日十三萬二千噸とし、昭和百四十四年度に於ける甘蔗栽培面積は十三萬三千町歩、製糖能力は一日十三萬三千噸とし、昭和百四十五年度に於ける甘蔗栽培面積は十三萬四千町歩、製糖能力は一日十三萬四千噸とし、昭和百四十六年度に於ける甘蔗栽培面積は十三萬五千町歩、製糖能力は一日十三萬五千噸とし、昭和百四十七年度に於ける甘蔗栽培面積は十三萬六千町歩、製糖能力は一日十三萬六千噸とし、昭和百四十八年度に於ける甘蔗栽培面積は十三萬七千町歩、製糖能力は一日十三萬七千噸とし、昭和百四十九年度に於ける甘蔗栽培面積は十三萬八千町歩、製糖能力は一日十三萬八千噸とし、昭和百五十年度に於ける甘蔗栽培面積は十三萬九千町歩、製糖能力は一日十三萬九千噸とし、昭和百五十一年度に於ける甘蔗栽培面積は十四萬町歩、製糖能力は一日十四萬噸とし、昭和百五十二年度に於ける甘蔗栽培面積は十四萬一千町歩、製糖能力は一日十四萬一千噸とし、昭和百五十三年度に於ける甘蔗栽培面積は十四萬二千町歩、製糖能力は一日十四萬二千噸とし、昭和百五十四年度に於ける甘蔗栽培面積は十四萬三千町歩、製糖能力は一日十四萬三千噸とし、昭和百五十五年度に於ける甘蔗栽培面積は十四萬四千町歩、製糖能力は一日十四萬四千噸とし、昭和百五十六年度に於ける甘蔗栽培面積は十四萬五千町歩、製糖能力は一日十四萬五千噸とし、昭和百五十七年度に於ける甘蔗栽培面積は十四萬六千町歩、製糖能力は一日十四萬六千噸とし、昭和百五十八年度に於ける甘蔗栽培面積は十四萬七千町歩、製糖能力は一日十四萬七千噸とし、昭和百五十九年度に於ける甘蔗栽培面積は十四萬八千町歩、製糖能力は一日十四萬八千噸とし、昭和百六十年度に於ける甘蔗栽培面積は十四萬九千町歩、製糖能力は一日十四萬九千噸とし、昭和百六十一年度に於ける甘蔗栽培面積は十五萬町歩、製糖能力は一日十五萬噸とし、昭和百六十二年度に於ける甘蔗栽培面積は十五萬一千町歩、製糖能力は一日十五萬一千噸とし、昭和百六十三年度に於ける甘蔗栽培面積は十五萬二千町歩、製糖能力は一日十五萬二千噸とし、昭和百六十四年度に於ける甘蔗栽培面積は十五萬三千町歩、製糖能力は一日十五萬三千噸とし、昭和百六十五年度に於ける甘蔗栽培面積は十五萬四千町歩、製糖能力は一日十五萬四千噸とし、昭和百六十六年度に於ける甘蔗栽培面積は十五萬五千町歩、製糖能力は一日十五萬五千噸とし、昭和百六十七年度に於ける甘蔗栽培面積は十五萬六千町歩、製糖能力は一日十五萬六千噸とし、昭和百六十八年度に於ける甘蔗栽培面積は十五萬七千町歩、製糖能力は一日十五萬七千噸とし、昭和百六十九年度に於ける甘蔗栽培面積は十五萬八千町歩、製糖能力は一日十五萬八千噸とし、昭和百七十年度に於ける甘蔗栽培面積は十五萬九千町歩、製糖能力は一日十五萬九千噸とし、昭和百七十一年度に於ける甘蔗栽培面積は十六萬町歩、製糖能力は一日十六萬噸とし、昭和百七十二年度に於ける甘蔗栽培面積は十六萬一千町歩、製糖能力は一日十六萬一千噸とし、昭和百七十三年度に於ける甘蔗栽培面積は十六萬二千町歩、製糖能力は一日十六萬二千噸とし、昭和百七十四年度に於ける甘蔗栽培面積は十六萬三千町歩、製糖能力は一日十六萬三千噸とし、昭和百七十五年度に於ける甘蔗栽培面積は十六萬四千町歩、製糖能力は一日十六萬四千噸とし、昭和百七十六年度に於ける甘蔗栽培面積は十六萬五千町歩、製糖能力は一日十六萬五千噸とし、昭和百七十七年度に於ける甘蔗栽培面積は十六萬六千町歩、製糖能力は一日十六萬六千噸とし、昭和百七十八年度に於ける甘蔗栽培面積は十六萬七千町歩、製糖能力は一日十六萬七千噸とし、昭和百七十九年度に於ける甘蔗栽培面積は十六萬八千町歩、製糖能力は一日十六萬八千噸とし、昭和百八十年度に於ける甘蔗栽培面積は十六萬九千町歩、製糖能力は一日十六萬九千噸とし、昭和百八十一年度に於ける甘蔗栽培面積は十七萬町歩、製糖能力は一日十七萬噸とし、昭和百八十二年度に於ける甘蔗栽培面積は十七萬一千町歩、製糖能力は一日十七萬一千噸とし、昭和百八十三年度に於ける甘蔗栽培面積は十七萬二千町歩、製糖能力は一日十七萬二千噸とし、昭和百八十四年度に於ける甘蔗栽培面積は十七萬三千町歩、製糖能力は一日十七萬三千噸とし、昭和百八十五年度に於ける甘蔗栽培面積は十七萬四千町歩、製糖能力は一日十七萬四千噸とし、昭和百八十六年度に於ける甘蔗栽培面積は十七萬五千町歩、製糖能力は一日十七萬五千噸とし、昭和百八十七年度に於ける甘蔗栽培面積は十七萬六千町歩、製糖能力は一日十七萬六千噸とし、昭和百八十八年度に於ける甘蔗栽培面積は十七萬七千町歩、製糖能力は一日十七萬七千噸とし、昭和百八十九年度に於ける甘蔗栽培面積は十七萬八千町歩、製糖能力は一日十七萬八千噸とし、昭和百九十年度に於ける甘蔗栽培面積は十七萬九千町歩、製糖能力は一日十七萬九千噸とし、昭和百九十一年度に於ける甘蔗栽培面積は十八萬町歩、製糖能力は一日十八萬噸とし、昭和百九十二年度に於ける甘蔗栽培面積は十八萬一千町歩、製糖能力は一日十八萬一千噸とし、昭和百九十三年度に於ける甘蔗栽培面積は十八萬二千町歩、製糖能力は一日十八萬二千噸とし、昭和百九十四年度に於ける甘蔗栽培面積は十八萬三千町歩、製糖能力は一日十八萬三千噸とし、昭和百九十五年度に於ける甘蔗栽培面積は十八萬四千町歩、製糖能力は一日十八萬四千噸とし、昭和百九十六年度に於ける甘蔗栽培面積は十八萬五千町歩、製糖能力は一日十八萬五千噸とし、昭和百九十七年度に於ける甘蔗栽培面積は十八萬六千町歩、製糖能力は一日十八萬六千噸とし、昭和百九十八年度に於ける甘蔗栽培面積は十八萬七千町歩、製糖能力は一日十八萬七千噸とし、昭和百九十九年度に於ける甘蔗栽培面積は十八萬八千町歩、製糖能力は一日十八萬八千噸とし、昭和二百年度に於ける甘蔗栽培面積は十八萬九千町歩、製糖能力は一日十八萬九千噸とし、昭和二百一年度に於ける甘蔗栽培面積は十九萬町歩、製糖能力は一日十九萬噸とし、昭和二百二年度に於ける甘蔗栽培面積は十九萬一千町歩、製糖能力は一日十九萬一千噸とし、昭和二百三年度に於ける甘蔗栽培面積は十九萬二千町歩、製糖能力は一日十九萬二千噸とし、昭和二百四年度に於ける甘蔗栽培面積は十九萬三千町歩、製糖能力は一日十九萬三千噸とし、昭和二百五年度に於ける甘蔗栽培面積は十九萬四千町歩、製糖能力は一日十九萬四千噸とし、昭和二百六年度に於ける甘蔗栽培面積は十九萬五千町歩、製糖能力は一日十九萬五千噸とし、昭和二百七年度に於ける甘蔗栽培面積は十九萬六千町歩、製糖能力は一日十九萬六千噸とし、昭和二百八年度に於ける甘蔗栽培面積は十九萬七千町歩、製糖能力は一日十九萬七千噸とし、昭和二百九年度に於ける甘蔗栽培面積は十九萬八千町歩、製糖能力は一日十九萬八千噸とし、昭和二百十年度に於ける甘蔗栽培面積は十九萬九千町歩、製糖能力は一日十九萬九千噸とし、昭和二百十一年度に於ける甘蔗栽培面積は二十萬町歩、製糖能力は一日二十萬噸とし、昭和二百十二年度に於ける甘蔗栽培面積は二十萬一千町歩、製糖能力は一日二十萬一千噸とし、昭和二百十三年度に於ける甘蔗栽培面積は二十萬二千町歩、製糖能力は一日二十萬二千噸とし、昭和二百十四年度に於ける甘蔗栽培面積は二十萬三千町歩、製糖能力は一日二十萬三千噸とし、昭和二百十五年度に於ける甘蔗栽培面積は二十萬四千町歩、製糖能力は一日二十萬四千噸とし、昭和二百十六年度に於ける甘蔗栽培面積は二十萬五千町歩、製糖能力は一日二十萬五千噸とし、昭和二百十七年度に於ける甘蔗栽培面積は二十萬六千町歩、製糖能力は一日二十萬六千噸とし、昭和二百十八年度に於ける甘蔗栽培面積は二十萬七千町歩、製糖能力は一日二十萬七千噸とし、昭和二百十九年度に於ける甘蔗栽培面積は二十萬八千町歩、製糖能力は一日二十萬八千噸とし、昭和二百二十年度に於ける甘蔗栽培面積は二十萬九千町歩、製糖能力は一日二十萬九千噸とし、昭和二百二十一年度に於ける甘蔗栽培面積は二十一萬町歩、製糖能力は一日二十一萬噸とし、昭和二百二十二年度に於ける甘蔗栽培面積は二十一萬一千町歩、製糖能力は一日二十一萬一千噸とし、昭和二百二十三年度に於ける甘蔗栽培面積は二十一萬二千町歩、製糖能力は一日二十一萬二千噸とし、昭和二百二十四年度に於ける甘蔗栽培面積は二十一萬三千町歩、製糖能力は一日二十一萬三千噸とし、昭和二百二十五年度に於ける甘蔗栽培面積は二十一萬四千町歩、製糖能力は一日二十一萬四千噸とし、昭和二百二十六年度に於ける甘蔗栽培面積は二十一萬五千町歩、製糖能力は一日二十一萬五千噸とし、昭和二百二十七年度に於ける甘蔗栽培面積は二十一萬六千町歩、製糖能力は一日二十一萬六千噸とし、昭和二百二十八年度に於ける甘蔗栽培面積は二十一萬七千町歩、製糖能力は一日二十一萬七千噸とし、昭和二百二十九年度に於ける甘蔗栽培面積は二十一萬八千町歩、製糖能力は一日二十一萬八千噸とし、昭和二百三十年度に於ける甘蔗栽培面積は二十一萬九千町歩、製糖能力は一日二十一萬九千噸とし、昭和二百三十一年度に於ける甘蔗栽培面積は二十二萬町歩、製糖能力は一日二十二萬噸とし、昭和二百三十二年度に於ける甘蔗栽培面積は二十二萬一千町歩、製糖能力は一日二十二萬一千噸とし、昭和二百三十三年度に於ける甘蔗栽培面積は二十二萬二千町歩、製糖能力は一日二十二萬二千噸とし、昭和二百三十四年度に於ける甘蔗栽培面積は二十二萬三千町歩、製糖能力は一日二十二萬三千噸とし、昭和二百三十五年度に於ける甘蔗栽培面積は二十二萬四千町歩、製糖能力は一日二十二萬四千噸とし、昭和二百三十六年度に於ける甘蔗栽培面積は二十二萬五千町歩、製糖能力は一日二十二萬五千噸とし、昭和二百三十七年度に於ける甘蔗栽培面積は二十二萬六千町歩、製糖能力は一日二十二萬六千噸とし、昭和二百三十八年度に於ける甘蔗栽培面積は二十二萬七千町歩、製糖能力は一日二十二萬七千噸とし、昭和二百三十九年度に於ける甘蔗栽培面積は二十二萬八千町歩、製糖能力は一日二十二萬八千噸とし、昭和二百四十年度に於ける甘蔗栽培面積は二十二萬九千町歩、製糖能力は一日二十二萬九千噸とし、昭和二百四十一年度に於ける甘蔗栽培面積は二十三萬町歩、製糖能力は一日二十三萬噸とし、昭和二百四十二年度に於ける甘蔗栽培面積は二十三萬一千町歩、製糖能力は一日二十三萬一千噸とし、昭和二百四十三年度に於ける甘蔗栽培面積は二十三萬二千町歩、製糖能力は一日二十三萬二千噸とし、昭和二百四十四年度に於ける甘蔗栽培面積は二十三萬三千町歩、製糖能力は一日二十三萬三千噸とし、昭和二百四十五年度に於ける甘蔗栽培面積は二十三萬四千町歩、製糖能力は一日二十三萬四千噸とし、昭和二百四十六年度に於ける甘蔗栽培面積は二十三萬五千町歩、製糖能力は一日二十三萬五千噸とし、昭和二百四十七年度に於ける甘蔗栽培面積は二十三萬六千町歩、製糖能力は一日二十三萬六千噸とし、昭和二百四十八年度に於ける甘蔗栽培面積は二十三萬七千町歩、製糖能力は一日二十三萬七千噸とし、昭和二百四十九年度に於ける甘蔗栽培面積は二十三萬八千町歩、製糖能力は一日二十三萬八千噸とし、昭和二百五十年度に於ける甘蔗栽培面積は二十三萬九千町歩、製糖能力は一日二十三萬九千噸とし、昭和二百五十一年度に於ける甘蔗栽培面積は二十四萬町歩、製糖能力は一日二十四萬噸とし、昭和二百五十二年度に於ける甘蔗栽培面積は二十四萬一千町歩、製糖能力は一日二十四萬一千噸とし、昭和二百五十三年度に於ける甘蔗栽培面積は二十四萬二千町歩、製糖能力は一日二十四萬二千噸とし、昭和二百五十四年度に於ける甘蔗栽培面積は二十四萬三千町歩、製糖能力は一日二十四萬三千噸とし、昭和二百五十五年度に於ける甘蔗栽培面積は二十四萬四千町歩、製糖能力は一日二十四萬四千噸とし、昭和二百五十六年度に於ける甘蔗栽培面積は二十四萬五千町歩、製糖能力は一日二十四萬五千噸とし、昭和二百五十七年度に於ける甘蔗栽培面積は二十四萬六千町歩、製糖能力は一日二十四萬六千噸とし、昭和二百五十八年度に於ける甘蔗栽培面積は二十四萬七千町歩、製糖能力は一日二十四萬七千噸とし、昭和二百五十九年度に於ける甘蔗栽培面積は二十四萬八千町歩、製糖能力は一日二十四萬八千噸とし、昭和二百六十年度に於ける甘蔗栽培面積は二十四萬九千町歩、製糖能力は一日二十四萬九千噸とし、昭和二百六十一年度に於ける甘蔗栽培面積は二十五萬町歩、製糖能力は一日二十五萬噸とし、昭和二百六十二年度に於ける甘蔗栽培面積は二十五萬一千町歩、製糖能力は一日二十五萬一千噸とし、昭和二百六十三年度に於ける甘蔗栽培面積は二十五萬二千町歩、製糖能力は一日二十五萬二千噸とし、昭和二百六十四年度に於ける甘蔗栽培面積は二十五萬三千町歩、製糖能力は一日二十五萬三千噸とし、昭和二百六十五年度に於ける甘蔗栽培面積は二十五萬四千町歩、製糖能力は一日二十五萬四千噸とし、昭和二百六十六年度に於ける甘蔗栽培面積は二十五萬五千町歩、製糖能力は一日二十五萬五千噸とし、昭和二百六十七年度に於ける甘蔗栽培面積は二十五萬六千町歩、製糖能力は一日二十五萬六千噸とし、昭和二百六十八年度に於ける甘蔗栽培面積は二十五萬七千町歩、製糖能力は一日二十五萬七千噸とし、昭和二百六十九年度に於ける甘蔗栽培面積は二十五萬八千町歩、製糖能力は一日二十五萬八千噸とし、昭和二百七十年度に於ける甘蔗栽培面積は二十五萬九千町歩、製糖能力は一日二十五萬九千噸とし、昭和二百七十一年度に於ける甘蔗栽培面積は二十六萬町歩、製糖能力は一日二十六萬噸とし、昭和二百七十二年度に於ける甘蔗栽培面積は二十六萬一千町歩、製糖能力は一日二十六萬一千噸とし、昭和二百七十三年度に於ける甘蔗栽培面積は二十六萬二千町歩、製糖能力は一日二十六萬二千噸とし、昭和二百七十四年度に於ける甘蔗栽培面積は二十六萬三千町歩、製糖能力は一日二十六萬三千噸とし、昭和二百七十五年度に於ける甘蔗栽培面積は二十六萬四千町歩、製糖能力は一日二十六萬四千噸とし、昭和二百七十六年度に於ける甘蔗栽培面積は二十六萬五千町歩、製糖能力は一日二十六萬五千噸とし、昭和二百七十七年度に於ける甘蔗栽培面積は二十六萬六千町歩、製糖能力は一日二十六萬六千噸とし、昭和二百七十八年度に於ける甘蔗栽培面積は二十六萬七千町歩、製糖能力は一日二十六萬七千噸とし、昭和二百七十九年度に於ける甘蔗栽培面積は二十六萬八千町歩、製糖能力は一日二十六萬八千噸とし、昭和二百八十年度に於ける甘蔗栽培面積は二十六萬九千町歩、製糖能力は一日二十六萬九千噸とし、昭和二百八十一年度に於ける甘蔗栽培面積は二十七萬町歩、製糖能力は一日二十七萬噸とし、昭和二百八十二年度に於ける甘蔗栽培面積は二十七萬一千町歩、製糖能力は一日二十七萬一千噸とし、昭和二百八十三年度に於ける甘蔗栽培面積は二十七萬二千町歩、製糖能力は一日二十七萬二千噸とし、昭和二百八十四年度に於ける甘蔗栽培面積は二十七萬三千町歩、製糖能力は一日二十七萬三千噸とし、昭和二百八十五年度に於ける甘蔗栽培面積は二十七萬四千町歩、製糖能力は一日二十七萬四千噸とし、昭和二百八十六年度に於ける甘蔗栽培面積は二十七萬五千町歩、製糖能力は一日二十七萬五千噸とし、昭和二百八十七年度に於ける甘蔗栽培面積は二十七萬六千町歩、製糖能力は一日二十七萬六千噸とし、昭和二百八十八年度に於ける甘蔗栽培面積は二十七萬七千町歩、製糖能力は一日二十七萬七千噸とし、昭和二百八十九年度に於ける甘蔗栽培面積は二十七萬八千町歩、製糖能力は一日二十七萬八千噸とし、昭和二百九十年度に於ける甘蔗栽培面積は二十七萬九千町歩、製糖能力は一日二十七萬九千噸とし、昭和二百九十一年度に於ける甘蔗栽培面積は二十八萬町歩、製糖能力は一日二十八萬噸とし、昭和二百九十二年度に於ける甘蔗栽培面積は二十八萬一千町歩、製糖能力は一日二十八萬一千噸とし、昭和二百九十三年度に於ける甘蔗栽培面積は二十八萬二千町歩、製糖能力は一日二十八萬二千噸とし、昭和二百九十四年度に於ける甘蔗栽培面積は二十八萬三千町歩、製糖能力は一日二十八萬三千噸とし、昭和二百九十五年度に於ける甘蔗栽培面積は二十八萬四千町歩、製糖能力は一日二十八萬四千噸とし、昭和二百九十六年度に於ける甘蔗栽培面積は二十八萬五千町歩、製糖能力は一日二十八萬五千噸とし、昭和二百九十七年度に於ける甘蔗栽培面積は二十八萬六千町歩、製糖能力は一日二十八萬六千噸とし、昭和二百九十八年度に於ける甘蔗栽培面積は二十八萬七千町歩、製糖能力は一日二十八萬七千噸とし、昭和二百九十九年度に於ける甘蔗栽培面積は二十八萬八千町歩、製糖能力は一日二十八萬八千噸とし、昭和三百年度に於ける甘蔗栽培面積は二十八萬九千町歩、製糖能力は一日二十八萬九千噸とし、昭和三百一年度に於ける甘蔗栽培面積は二十九萬町歩、製糖能力は一日二十九萬噸とし、昭和三百二年度に於ける甘蔗栽培面積は二十九萬一千町歩、製糖能力は一日二十九萬一千噸とし、昭和三百三年度に於ける甘蔗栽培面積は二十九萬二千町歩、製糖能力は一日二十九萬二千噸とし、昭和三百四年度に於ける甘蔗栽培面積は二十九萬三千町歩、製糖能力は一日二十九萬三千噸とし、昭和三百五年度に於ける甘蔗栽培面積は二十九萬四千町歩、製糖能力は一日二十九萬四千噸とし、昭和三百六年度に於ける甘蔗栽培面積は二十九萬五千町歩、製糖能力は一日二十九萬五千噸とし、昭和三百七年度に於ける甘蔗栽培面積は二十九萬六千町歩、製糖能力は一日二十九萬六千噸とし、昭和三百八年度に於ける甘蔗栽培面積は二十九萬七千町歩、製糖能力は一日二十九萬七千噸とし、昭和三百九年度に於ける甘蔗栽培面積は二十九萬八千町歩、製糖能力は一日二十九萬八千噸とし、昭和三百十年度に於ける甘蔗栽培面積は二十九萬九千町歩、製糖能力は一日二十九萬九千噸とし、昭和三百十一年度に於ける甘蔗栽培面積は三十萬町歩、製糖能力は一日三十萬噸とし、昭和三百十二年度に於ける甘蔗栽培面積は三十萬一千町歩、製糖能力は一日三十萬一千噸とし、昭和三百十三年度に於ける甘蔗栽培面積は三十萬二千町歩、製糖能力は一日

世紀の除夜 (61)

北村小松作
都竹伸一畫

（承前）

錆　象（七）

「ところで、何ましたっけ……」

都竹が、そこで思い出そうとつぶやきながら、しげしげと相手の方を眺めきった。

「お忘れになったんですか、昨夜あんなに力をこめて、あなたについてのうちうちしゃるとおっしゃったじゃありませんか。あなたはコルボ博士を御存知になっていらしたのですか」

「いいえ……」

錆象は、それの出所を、みな、自分を指導する眼光が鋭くて何だか威圧ゆく、うつむきかげんになりながら答へた。

「昨夜したってわけではございませんが、パリにる時々、伸上しにてくださったマドレーヌと云う女の方から、博士を紹介してもらったのことを聞いてくれたものですから……ついに、昨夜の朝には驚くとともに、日本が全面的に立ち上がったこの大戦の時、ドイツを相手に、死生をそのフランスを助けた、そしてアメリカを助けんでる、同じアメリカ民族的な文化の影響を受けてくる私どもに、どうしてこんな風な考へ方をするのだろうと、私は不思議でなりませんでした。……私、留学の前の中や、何か日本が誇りつきた過去を見たくなって、又の歴史を研究しようとしたりしながら、ますます、日本人がこの地の大戦の時代に、ドイツを相手に、死生をそのフランス

臺中州下 郷軍連合演習終る

員林驛前で堂々と分列行進

【臺中電話】二十九日午後臺中州下員林驛前に於ける郷軍連合演習は午後二時半より分列行進を行ひ午後三時半解散した

郷軍、警察官、生徒動員して連合演習

七日大武山麓に展開

【臺東電話】昭和十五年度臺東廳下郷軍連合演習は十一月七日大武山麓に於て展開する事となつた

臺南州下山地の開發計畫案成る

【臺南電話】臺南州の蕃地開發調査會は十月廿五日午前十時より州廳樓上に第二回總會を開き左記議題に付協議を遂げた

門松は打附け式に

嘉義市内は一律に決る

【嘉義電話】嘉義市内の門松は一律に打附け式とし一般市民に自肅を促すことに決定した

高橋司令官歸任

【臺中電話】臺灣軍司令官高橋中將は二十九日午後一時半臺中驛着列車にて歸任した

公學校の兒童が交通訓練に奉仕

【嘉義電話】嘉義郡下に於ける十一月一日より七日迄の交通週間は萬事に於て好成績を以て終了したが多くの美談中

臺灣最初の女流飛行家

同鏃 飛翔

【臺南電話】十二月二日臺南飛行場に於ける臺灣最初の女流飛行家同鏃嬢の飛翔

あす郷土訪問飛行

自信はある……とほのめかす言外

【臺北電話】二十九日臺北飛行場に於ける郷土訪問飛行は

高雄市營バス

愈よけふ開業

【高雄電話】十月廿五日の市營バス開業は諸般の都合上一日から開業する事となり市當局では萬全の準備を

けふ奉公日の行事

【臺北電話】十一月一日の聖戰第二周年紀念日は即ち第十回の奉公日に當るので花

慾張る商人に鐵槌

新竹州で斷乎取締る

【新竹電話】新竹州下に於ける綿布の配給に關しては

嘉義市内業者から發議

歲末商内も新體制

【嘉義電話】嘉義市商工會議所では今回の臨時議會に於て新しく發足した大政翼贊會嘉義市支部の下部組織として

小賣業者を統合し

會社組織に改編か

【新竹電話】新竹州下に於ける綿布の配給に關しては

經濟事犯は漸次惡質化

【臺南電話】臺南州下に於ける十月中の經濟事犯檢擧總數は二十六件百四十三名で九月に比べ件數に二百

肉豚を自給自足

鑛夫の爲め會社で飼育

【基隆電話】基隆炭礦株式會社では鑛夫の榮養補給の爲め

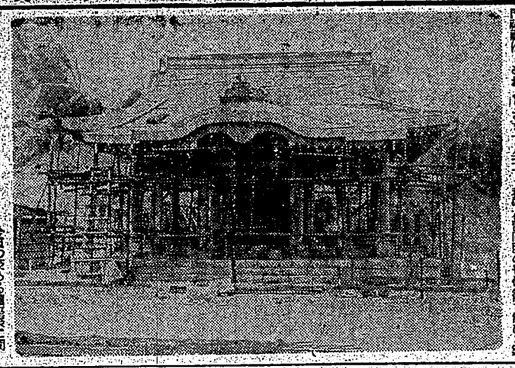
臺灣日日新報 臺中州版 臺南州版 臺北州版 臺東廳版 高雄州版 臺中州版 彰化版 新竹州版 嘉義市

奉祝厦門神社御創建

守護神御造營成り けふ嚴かな鎭座祭

幽邃森嚴な美山の神域

厦門市内一萬三千の市民と共に官民擧げて奉祝し來る廿一日午前十時より鼓浪嶼内田別荘前廣場に於て嚴かに擧行される厦門神社の御造營は此程全く竣工を告げ今日(一日)嚴かな鎭座祭が擧行されるに至つたのである　本社初詣、例大祭(紀元二千六百年祭)を兼ねる一萬餘圓の大日本一の社殿の誕生とて花咲の市民は勿論全島の期待を一身に集めてゐる



竣工近き厦門神社　今日の祭典を前に間近く聳えてゐる……(十二月二十四日撮影)

歡喜溢れる居留同胞

御祭神は四柱

鎭座祭を迎へて

鈴木佐平氏謹話

永久に喜びの極みです。

神社御創建に際し

興亞院厦門連絡部長官　太田泰治氏謹話

御造營を壽ぎて

建設委員長　厦門總領事　内田五郎氏謹話

在厦門　總領事　内田五郎　外館員一同

興亞院厦門連絡部　長官　太田泰治　外職員一同

小林義雄

厦門日本居留民會　會長　鈴木佐平　副會長　中洋賢一　副會長　庄司德太郎　顧問　堀江佐武郎　尾辻信親　松岡忠綏　堀内三郎　金光秀吉　澤重信　鈴樹忠信　楠本三九兒　玉井元透　野浮陸三　野川竹畑　藤吉市文八　理事長　福士亮　書記長　平城依永

厦門臺灣居留民會　會長　陳天壇　副會長　陳登添　顧問　林爾嘉　林盛發　蘇警予　楊水慶　陳文添　施全泰　張雅秀　黃珍　李江臨　郭茂林　黃重恩　陳基根　陳魁奇　淡水龜　義華糖餅罐頭食品行　坂口定吉商店出張所　厦門煉瓦公司　亞細亞寫眞館　旅館　大久保齒科醫院　高桑洋行　厦門電氣通信股份有限公司　厦門荷役倉庫股份有限公司　櫻井組厦門出張所　忠和洋行厦門出張所　厦門建設股份有限公司　厦門物資交易組合　厦門共榮會　厦門出張所　博愛會　厦門醫院　日華親善機關　厦門新興洋行　福裕公司　大興行　陳福長　厦門士木建築請負業組合　勸業銀行　海南洋行　陳學海　福建物產公司　董事長　陳基波　常務董事　蔡青　總行　厦門市晨光路四七　電話四六一　電報掛號一五七　支店　汕頭、上海、廣東　厦門豐南信託公司　代表者　林木土　南興公司　厦門出張所　營業所　酒煙草工場　三井物產株式會社　厦門出張所　所長　鈴木佐平　福大公司厦門支店　厦門市海後路三〇號　東亞海運株式會社　厦門支店　三菱商事株式會社　厦門出張所　本店所在地　臺北　支店所在地　臺灣　基隆、新竹、臺中、彰化、嘉義、臺南、高雄、宜蘭、淡水、桃園、南投、屏東、臺東、花蓮港、馬公　其他　中國　上海、福州、厦門、汕頭、香港、廣東、漢口(駐在)大連　孟買、倫敦、紐育、孟尼喇、新嘉坡、四里末、錫蘭暨　日本　神戶、大阪、橫濱、東京　臺灣銀行　厦門市鷺江道四八　臺灣青果株式會社　今田榮德　厦門市鼓浪嶼內田別荘　柏原旅館　厦門市鷺江道十五號　厦門新興洋行　電話二一四一〇八　支店　汕頭、廣東、香港、澳門　厦門市鷺江道一二六　厦門物資交易組合　電話六一二五番　厦門市鷺江道一二六　厦門共榮會　厦門市公園南路七號　電話二六一番　厦門市鷺江道一二六　厦門建設股份有限公司　電話　厦門市磧邦路門牌一〇二號　厦門市昇平路二十號　電話六八五六　厦門荷役倉庫股份有限公司　厦門市海後路四二號　厦門電氣通信股份有限公司　厦門市思明西路五四　電話一九九番　支店　汕頭市永泰路一四五　電話三二二番　厦門市思明西路　東京　白木屋厦門出張所　厦門市思明西路五六號　電話七二九八番　菊元商行厦門出張所　厦門市思明西路　羽衣會館支店　厦門市後路三十八號　電話三八〇〇番　厦門市鷺江道　柏原洋行　電話五六二番　厦門市鷺江道　宏發公司　厦門市昇平路四四號　厦門市自來水有限公司　厦門市海後路一九號　厦門市電力有限公司　厦門市鼓浪嶼內田別荘　全閩水產有限公司　厦門市龍船礁卷二六號　厦門市海後路　海南洋行　陳學海　厦門市昇平路四六號　大興行　陳長福　電話七六八　厦門市海後路二四七　義華糖餅罐頭食品行　電話六四二番　厦門市大漢路二四七　坂口定吉商店出張所　厦門煉瓦公司　厦門市大漢路二〇〇號　亞細亞寫眞館　厦門市海後路三八　大久保齒科醫院　電話四二番　厦門市大中路六八　高桑洋行　厦門市海後路二〇號　雙原公司　電話九一番　厦門市海後路三〇號　新興公司　厦門市大漢路一〇〇號　廣生堂藥店　厦門市大漢路一七號　安樂兒片本舖　厦門市海後路六八　大茂公司　厦門市海後路五號　福興產業株式會社　厦門市後路三六號　南泰成百貨商場　厦門市大漢路二一八號　中華出光興產株式會社　厦門出張所　厦門市大漢路一二八號　南興公司　厦門出張所　營業所　酒煙草工場　三井物產株式會社　厦門出張所　所長　鈴木佐平　福大公司厦門支店　厦門市海後路三〇號　東亞海運株式會社　厦門支店　三菱商事株式會社　厦門出張所　本店所在地　臺北　支店所在地　臺灣　基隆、新竹、臺中、彰化、嘉義、臺南、高雄、宜蘭、淡水、桃園、南投、屏東、臺東、花蓮港、馬公　其他　中國　上海、福州、厦門、汕頭、香港、廣東、漢口(駐在)大連　孟買、倫敦、紐育、孟尼喇、新嘉坡、四里末、錫蘭暨　日本　神戶、大阪、橫濱、東京　臺灣銀行　厦門市鷺江道四八　臺灣青果株式會社　今田榮德　厦門市鼓浪嶼內田別荘　柏原旅館　厦門市鷺江道十五號　厦門新興洋行　電話二一四一〇八　支店　汕頭、廣東、香港、澳門　厦門市鷺江道一二六　厦門物資交易組合　電話六一二五番　厦門市鷺江道一二六　厦門建設股份有限公司　電話　厦門市磧邦路門牌一〇二號　厦門市昇平路二十號　電話六八五六　厦門荷役倉庫股份有限公司　厦門市海後路四二號　厦門電氣通信股份有限公司　厦門市思明西路五四　電話一九九番　支店　汕頭市永泰路一四五　電話三二二番　厦門市思明西路五六號　電話七二九八番　菊元商行厦門出張所　厦門市思明西路　羽衣會館支店　厦門市後路三十八號　電話三八〇〇番　厦門市鷺江道　柏原洋行　電話五六二番　厦門市鷺江道　宏發公司　厦門市昇平路四四號　厦門市自來水有限公司　厦門市海後路一九號　厦門市電力有限公司　厦門市鼓浪嶼內田別荘　全閩水產有限公司　厦門市龍船礁卷二六號

汪主席の眼頭には感激の涙さへ浮ぶ
日支國交調整調印の日

【南京三十日發同盟】日支國交調整調印の歴史的日は遂に來た、三十日朝南京國民政府の國民會議場に於ける國民政府主席汪精衛氏と日本國全權大使阿部信行氏との調印は午前九時二十分から開始された、場内には汪主席を始め國民政府の要人、日本側は阿部大使を始め全權團一行、日本大使館員、陸海軍武官團、在留邦人代表等が參列、マーガレット・ファンダーリン女史の奏樂裡に入場、汪主席は何時もの通り常に變らぬ溫容を以て阿部大使と握手を交はし、阿部大使は汪主席に對し恭しく最敬禮を行ひ、汪主席は阿部大使に對し答禮を行ひ、兩者は相對して着席した、次で汪主席は三國條約、滿洲國承認に關する日滿兩國間の協定、日支間の協定、日支間の秘密協定、日支間の秘密協定に關する日滿兩國間の協定、日支間の秘密協定に關する日滿兩國間の協定、日支間の秘密協定に關する日滿兩國間の

SA—3 CBまづ勝つ

——試合を決した田中傳の本壘打／鐵CB復活野球戰 第一日

曾是して好機、開左中間安打で一、三塁と進み、三山三一塁に止めをさゝれ（CB）番場投手右前へ安打、二塁走者生還、一塁走者三塁に進む、続く一番打者田中傳三塁